

「令和5年度全国学力・学習状況調査」小学校国語 1 三(1)の問題

〔調査の結果〕

ア「いがい」の正答率

東京都(公立)	全国(公立)
56.7%	52.8%

ウ「きかん」の正答率

東京都(公立)	全国(公立)
76.2%	72.6%

これらの調査結果から、漢字を文の中で正しく使うことに課題があることが分かりました。

雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

正答…「意外」 誤答例…「以外」など

ウ きかんは、7月1日から15日までです。

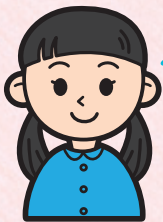
正答…「期間」 誤答例…「機間」など

漢字の学習において、どのように学習を進める
ことが大切なのでしょうか。



川村さんは、習っている漢字がひらがなになっていった部ア、ウを漢字に書き直すことにしました。部ア、ウを漢字でいねいに書きましよう。

テストなどで学習した漢字を書き間違えたときや新しく習う漢字を学習するときは、漢字の読み方や字形に注意しながら、粘り強く繰り返し書いて練習することにとどまらず、漢字のもつ意味を考えることがとても大切です。



「意外」と書く漢字を、間違って「以外」と書いてしまったよ。これから、正しい漢字をノートに書いて練習するね。

それは大切なことだね。でも、どうしてこの漢字を書き間違えたのかな。「以外」と「意外」は同じ読み方だけど、それぞれの熟語は、どういう意味か説明できるかな？

❶ どうして間違えたのかということについて考えるきっかけを与えてみましょう。

なんとなく分かるんだけど…。うまく説明ができないな…。



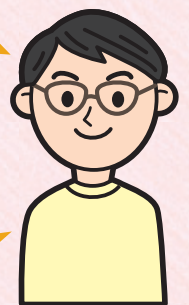
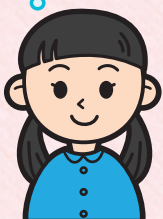
同じ読み方の漢字の意味を知りたいときは、どのように調べることができるかな。

❶ お子さん自身に学習の方法について考えさせてみましょう。



学校で同じ読み方の漢字を調べたときは、国語辞典やタブレット端末を使ったよ。

学校で学習したことを思い出して、家にある国語辞典で調べてみようか。



はじめて学習する漢字は、何度も繰り返し書いて覚えたり、熟語を書いたりすることは多いけど、こうやって熟語の意味を調べると、漢字のことがさらに理解できるようになるね。調べて分かったことを整理して、漢字学習ノートに書いておこう。

以外の「以」と、意外の「意」には、どのような違いがあるのかな…。それぞれの漢字の意味を調べてみようかな。



いがい【以外】名詞 それをのぞいたほかのもの。そのほか。例 そうする以外に方法はない。注意 「意外」と書きまちがえないこと。「以内」と対語にならない。

いがい【意外】名詞 形容動詞 おもいがけないこと。例 つりあげてみたら、意外に大きな魚だった。類 案外。(参考) 「案外」にくらべて、「思いがけない」という気持ちがより強い。

それはとてもいいね。漢字の意味を知りたいときは、どのように調べることができるのかな。

① 漢字辞典を使うことで、漢字の意味などを知ることができます。このように、何かのきっかけで言葉への関心が高まったときは、お子さんが主体的に学習に取り組む絶好の機会です。



① 漢字辞典を使った学習の進め方は、[令和4年度版]「お子さんの学力向上のために必要なこと」で紹介しています。



漢字の学習では、国語辞典や漢字辞典を日常的に使って、似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめるなどして、漢字のもつ意味を考えながら語彙を広げていくことが大切です。また、お子さんが御家庭で学習をしているときに、疑問に思ったことや興味を示したことがあったときは、「どのように調べることができるかな。」と積極的に声を掛けてみましょう。

コラム 漢字のもつ意味を考えながら学習することが大切

「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。」の回答結果

学年	学年	各回答を選択した児童の割合(%)				
		0	20	40	60	80
第4学年	令和5年度	35.3	33.9	22.1	8.6	
	令和4年度	34.4	34.1	22.6	8.9	
	令和3年度	31.8	33.9	24.6	9.8	
第5学年	令和5年度	31.5	32.8	25.1	10.6	
	令和4年度	31.3	32.6	25.1	11.1	
	令和3年度	28.7	33.0	26.6	11.7	
第6学年	令和5年度	31.8	32.2	24.4	11.6	
	令和4年度	30.1	32.9	25.5	11.6	
	令和3年度	27.6	32.1	27.2	13.1	

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

【令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」東京都全体の調査結果】より

3年間の都の学力調査の結果から、「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。」という学習の進め方を行っている児童は、年々、増加傾向にあることが分かりました。また、「漢字の部首の意味も考えながら覚えている。」という学習の進め方も、同様に増加傾向にあり、漢字のもつ意味を考えながら学習しようとする児童が増えているということが分かりました。

1・2年生では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくことなどを大切にしながら指導しています。

3・4年生では、熟語などの使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典などを使って自分で調べる活動を取り入れ、習慣として定着することを大切にしながら指導しています。

5・6年生では、熟語などの使用が一層増加する時期であるため、「意外」や「以外」などの同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることを大切にしながら指導しています。

